



## 「地下河川」って何なの

### 地下空間を利用した人工の川

日本では、1955(昭和30)年ごろから都市化が進み、都市部では、密集した市街地がつくられるようになりました。それまでは、土地が低いので、田畑として利用されてきた所も、工場や住宅地として、開発されたりしました。この結果、水田やぬまなどが失われ、ちょっとした雨でも、すぐに川があふれ、はんらんするようになりました。このようにして起こる災害を、「都市型水害」といいます。

都市型水害を防ぐための、施設として造られるようになったのが、地下河川です。

密集した市街地を通らなければならない場合や、地形上の制約から、地上に川水を流すための施設を造ることができない場合、地下河川が造られます。

大阪府の中央部を流れる寝屋川では、5本の地下河川が計画されています。その内の一つの「寝屋川南部地下河川」は、深さ約20メートルの地中に、直径約10メートルのトンネルを、13キロメートルにわたって、ほることになっています。

### 地下河川のいろいろ

これまでに造られた地下河川は、山地をトンネルをほって進むものや、市街地の地下をほって進むもの、これまでの川に平行して、道路の下を利用するもの、これまでの川の下に水路を設けるものなどがあります。

地下河川は、都市の密集地における災害をさけるためには、効果があるものですが、工事費や管理費が、地上の川より余分にかかるという短所があります。(監修・保岡 孝之)

